

脳梗塞・心筋梗塞について

たきざわ医院 院長
滝沢 敬子 先生

脳梗塞や心筋梗塞は突然発症し、命を奪うこともある怖い病気です。たとえ命は助かっていても重篤な後遺症を残してしまうことがあるため、このような病気にならないことが大切です。脳梗塞や心筋梗塞を未然に防ぐ手だてはあるのでしょうか？

梗塞とは血液が流れなくなって、その箇所の細胞が死滅してしまう状態のことです。梗塞が脳に起きると脳梗塞、心臓の筋肉に起きると心筋梗塞になります。脳や心筋の細胞は再生力がないので梗塞が起きた部分の回復は無く、後遺症として残ってしまいます。

なぜ血液が流れなくなってしまうのでしょうか？ 動脈硬化が進行して血管が細くなったり血管内壁が凸凹して血流が滞るようになってくると、血液が固まりやすくなって血の塊「血栓」がつくられ、血管を詰まらせるからです。脳梗塞も心筋梗塞の発症も、この「血栓」が関係しています。ですから、血栓ができないようにする、すなわち動脈硬化の進行を食い止めることが予防上の重要なポイントになります。

梗塞は動脈硬化の危険因子が多い人ほど発病しやすいということは、はっきりした事実です。危険因子としては、加齢、体質の遺伝、喫煙、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧などが該当します。これらのうち喫煙、肥満、高脂血症などは、禁煙や体重の維持、食事療法で改善できる因子です。生活習慣を改善してもなお高脂血症や糖尿病、高血圧などの治療が十分でない場合や脳梗塞、狭心症・心筋梗塞の発作をすでに経験したことがある人は、薬による治療が必要となります。一つには、高脂血症、糖尿病、高血圧など、動脈硬化危険因子の内服治療。もう一つは、梗塞の直接的な原因である血栓の形成を防ぐ治療です。

気になる症状がある人、症状が無くても検診や人間ドックなどで、高脂血症、糖尿病、高血圧などを指摘された人は医師に相談し、適切なアドバイスや治療を受けてください。早めの受診が脳梗塞や心筋梗塞予防の手だてとなるからです。